

書写からひろがる、まなび、暮らし

特集

新しい教科書はこう変わる！

2020年度版「小学書写」内容紹介

line 線



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

未来になう子どもたちへ
日本文教出版

Produce:STORE Art Direction & Design:ad detective QUEST

line 線

2019 教科書特集号

日文教育資料[小学校書写]

令和元年(2019年)5月15日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

CD33452



コンドウアキ
キャラクターデザイナー・イラストレーター・作家。「リラックマ生活」シリーズのほか、「うさぎのモフイ」、「みかんぼうや」シリーズなど著作多数。文具メーカー勤務を経てフリーとして活躍する傍ら、二児の母として育児に奮闘中。



観光地や空港などでは、歓迎や再訪を願うメッセージをよく見かけます。気持ちのこもった言葉は、目にするだけで嬉しくなります。様々な場所で、メッセージを探してみませんか。

本資料は、2020年度版 小学校国語科書写内容解説資料として扱われます。

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

- 大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
- 東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
- 九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
- 東海支社 〒461-0004 名古屋市中区東1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
- 北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690



新たに施行される教育課程のもと、様々な教育実践に取り組む先生方とともに、子どもたちの将来に生きる学びを届けられるよう、日文の「小学書写」が変わります。

小学書写

【内容紹介】

二〇二〇年度版

特集

新しい教科書はこう変わる！



CONTENTS

line 線

特集

新しい教科書はこう変わる！ 03

2020年度版 「小学書写」内容紹介

日文ウェブサイトのご案内 09

新版教科書をこう使う！ ①

使ってみよう！「水書きシート」 10

大阪府枚方市立蹠東小学校教諭 藤井美和子

新版教科書をこう使う！ ②

「都道府県名の書き方」を活用して 12

奈良県生駒市立生駒南第二小学校教諭 諸岡恭子

教えて山内先生！！

書写の力を身につける指導の手立て 14

神戸女子短期大学教授 山内有香子

特別寄稿

主体的・対話的で深い学びを支える書写教科書 18

甲南女子大学教授 尾崎靖二

特別寄稿

五・七・五で自分の思いを表現しよう 20

作家 やすみりえ

特別寄稿

教科書が変わる 授業が変わる 子どもが変わる 22

元大阪府千早赤阪村立千早小学校校長 宮本榮信

書写力向上宣言

「書写指導のミカタ」セミナーレポート 23

連載 第十三回

コンドウアキの書写的生活 24

コンドウアキ



基礎・基本が しっかり 身につく教科書

「これからどんな学習をするか」を見通す

主教材を「①考える→②確かめる→③いかす」の3ステップで構成しました。学習の流れを見通すことができ、流れにそった学習で、書写の原理・原則が確実に身につきます。



かんがえる

原理・原則を考える

文字を正しく整えて書くポイントを考えます。指でなぞったり水書用紙を使ったりして、書写の原理・原則を楽しく学びます。



たしかめる

他の文字で確かめる

「考える」で学んだことが身につくよう、他の文字で確かめます。教科書に書き込み欄を設定し、主体的な学習を促します。



いかす

文字を「言葉」にいかす

学習したことが生活にいきるよう、言葉や文を書く活動につながります。これにより、確かな書写力と豊かな文字感覚を育みます。

「どんな力がついたか」を認識する

子ども自ら学習の達成感を味わえるよう、めあてと自己評価を設定しました。めあてと評価項目が対応していることをはっきり示すことで、その教材で何を学習し、どんな力がつかがわかるようにしました。

めあて	「かんがえる」	「たしかめる」	「いかす」
できたかな (自己評価)			

【一・二年】 【三・四年】 【五・六年】

新版教科書では、それぞれのアイコンの数字部分を大きく示しました。次に何をどうするかがわかりやすく、学習の見通しを立てられるようになっていきます。

H27年度版「考える」



2020年度版「考える」



「とめ、はらう」の書き方を示す図解。数字1と2で筆順を示し、動物のイラストでイメージを助ける。

「か、はね、ぴたつ」の書き方を示す図解。数字1、2、3で筆順を示し、動物のイラストでイメージを助ける。

教科書の書き込み欄を手本文字の下に配置しました。右利きでも、左利きでも、手本が隠れることがなく、視写しやすいようになっています。

一つの教材に一つの目標として、学習内容を焦点化しました。子どもたちが学習を振り返りやすく、学習したことがしっかり身につくようにしました。

代表著者からのメッセージ

手書き文字に触れる機会が減った現在では、手作りの良さを感じる体験も、手書きに目を向けるきっかけの一つです。手作りには、相手を思いやる制作者と感謝する受け手の深い心の交流があります。その心の交流を通して、相手を思い、心を込めて一所懸命に作ることに尊厳に気づくことができれば、年賀状やお礼状は必ずと手て文字を書くようになるのではないのでしょうか。

学習指導要領の改訂で教科横断的な学習の充実が示されたことを受け、新版教科書では、国語科や他教科等と関連する内容を拡充させました。そして、そのつながりをもとに、学習内容が日常生活にフィードバックできるように配慮しています。文字を手で書くことの大切さや喜びを体験できる授業の組み立てや指導を期待しています。

池田利広

大阪教育大学教授、筑波大学芸術専門学群書写専攻卒業、筑波大学修士課程芸術研究科美術専攻書修了（芸術学修士）。改組新第五日展（平成三〇年度）第五回書、特選受賞。日本文教出版「小学書写」教科書代表著者。

新学習指導要領では「言語活動の充実」が重要な柱になっています。全ての教科における目標ですが、最も根幹を担うのは「国語」です。まずは「国語」と「書写」の内容的な連動を意識することによって、「国語」においても「書写」においても言葉を豊かにする授業が期待できるのです。

「国語」の学習のなかで言葉に気づかせ、文字とともに言葉を拾う目線をもつことができれば、子どもたちの言葉の感じ方や理解の仕方はもっと豊かになるでしょう。書きたい言葉に出会い、書きたいことを育むことが「書写」の豊かさへとつながっていくと考えます。

新しい「書写」の教科書は、そうした言葉の豊かさへとつながる意識を育むことを目指しました。

萱のり子

東京学芸大学教授、奈良教育大学特設書道専攻卒業、同大学院修士課程（美術教育）修了、大阪大学大学院博士課程（芸術学）単位取得退学、文学博士。日本文教出版「小学書写」教科書代表著者。

硬筆で適切に運筆する能力の向上と、その習慣の定着を意図して、水書用紙を貼付した「水書きシート」を一年・二年の教科書に付けました。

使い方をわかりやすく

水書用紙の特性をふまえた使い方を、平易な言葉で「水書きシート」の裏面に示しています。子どもたちが使い方を知り、大切に扱えるようにしました。

教科書から取り外して

点画の書き方を練習するだけでなく、あらゆる教材の手本文字を視写しやすくするために、「水書きシート」を教科書から取り外すことができるようにしました。

また、教科書と分けて管理できるため、授業時間内に乾かす必要がありません。これにより、時間を気にすることなく、何度でも繰り返し活用できます。

全ての子どもたちが活用できるように

水書用紙は、様々な色が一般に販売されています。濡れた部分の色が濃くなることを考慮し、「水書きシート」には、筆跡が黒くなる灰色の水書用紙を貼付しました。灰色の水書用紙は、変化前後を見分けやすく、ユニバーサルデザインにも配慮しています。



子ども自ら考えて書く力を育む教科書

新しい教科書はこう変わる！

「何をいつ学ぶか」を知る

一・二年では、3ステップのマークの説明とともに、学習の進め方を平易な言葉ではっきりと示し、三～六年では、一般的な授業の流れとともに、毛筆学習の進め方を掲載しました。

入学直後の子どもたちの発達段階を考慮して一年は本文に、二年以降は巻頭に設定しています。



【一年 P.8・9】



【一年 付録(表)】

【一年 付録(裏)】

三・四年では、毛筆学習の参考にできるよう、具体的な進め方を一例として示しています。

【三年 P.1・2】

【五年 P.1・2】

五・六年では、書写の学習内容を国語科の各領域や他教科の観点をもつまえて、総合的な見方・考え方で捉えられらることを促しています。

学びを日常に 生かす力をつける 教科書

「国語の広場」コーナー

子どもたちの学習活動や日常生活には、様々な「書く場面」があります。学年や領域に応じた言語活動をふまえて、書写で培った力の活用を意識した教材を全学年に掲載しました。文字を書くためのだけの書写力ではなく、目的や相手を意識した書き方を考えることで、その力を確実なものとしします。

① ふみかさんのクラスでは、生活科の時間にミニトマトのかんざつ記ろくを書きました。

② はじめに、かんざつすること、気をつけること、みんなて話し合いました。

子どもたちが主体的に取り組みやすいよう、
*どんな場面・目的で
*誰に対して
*どのような表現様式で
行っているか、具体的に提示しました。



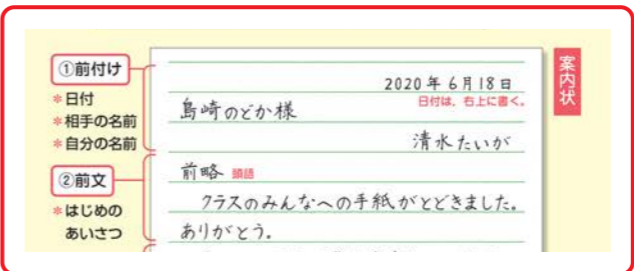
【二年 P.36・37】

各学年の教材名と言語活動

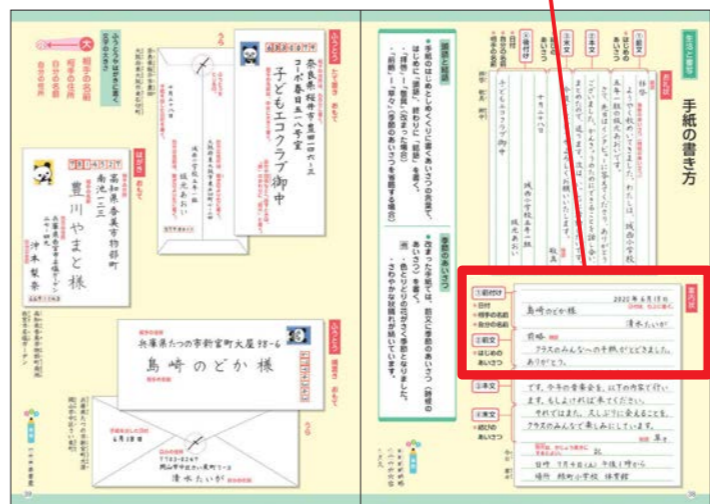
学年	教材名と言語活動	言語活動
一年	「あったことをスピーチしよう」	体験報告文
二年	「かんざつ記ろくを書こう」	記録
三年	「本で調べて、学習新聞を作ろう」	調査報告文
四年	「お気に入りの本をしょうかいしよう」	紹介
五年	「提案文を書いて、話し合おう」	提案
六年	「五・七・五で、自分の思いを表現しよう」	創作

「生活と書写」コーナー

「伝え合い」を重視して、絵日記や原稿用紙、学級新聞やポスター、手紙の書式などを、全学年に掲載しました。一・二年は本文（単元と単元の間）に掲載し、もれなく学習できるようにしました。三～六年は巻末に集約し、資料として活用できるようにしています。



便箋や封筒の書き方などの日常生活で使われている書式は、一般的な書き方を具体的に示しました。



【五年 P.38・39】

掲載した内容

掲載した内容	学年
絵日記	一・二年
手紙	一年（年賀状）、三年（お礼状、はがき）、四年（案内状、年賀状）、五年（お礼状、案内状、Eメール）、六年（お礼状、依頼状、Eメール）
原稿用紙	二～六年
掲示物	四～六年（学級新聞、ポスター）
メモ	五年（電話メモ）、六年（構成メモ）
その他	連絡帳：二年、都道府県名：四年 作品制作：六年

著者一覧

- 池田利広（龍仁） 大阪教育大学教授
- 菅のり子 東京学芸大学教授
- 浅田 徹 お茶の水女子大学教授
- 小倉太郎 筑波大学非常勤講師
- 尾崎靖二 甲南女子大学教授
- 杉村明信 和歌山県立耐久高等学校非常勤講師
- 関岡昌子 元大阪城南女子短期大学非常勤講師
- 高橋三穂 元岡山県岡山市立御津小学校校長
- 長井礼子 滋賀県日野町立桜谷小学校講師
- 新谷泰一（泰颯） 元京都橘大学教授
- 濱野 恵 茨城県つくば国際大学東風小学校教諭
- 藤井美和子 大阪府枚方市立蹊跼東小学校教諭
- 宮本榮信（墨童） 元大阪府千早赤阪村立千早小学校校長
- 宮本毛登明 岡山県岡山市立灘崎小学校教諭
- 諸岡恭子 奈良県生駒市立生駒南第二小学校教諭
- やすみりえ 作家
- 山内有香子 神戸女子短期大学教授
- 日本文教出版株式会社
- 特別支援教育・カラーユニバーサルデザインに関する校閲 大内 進 国立特別支援教育総合研究所 特任研究員
- 防災・安全教育に関する校閲 河田恵昭 関西大学特別任命教授
- 道徳教育に関する校閲 島 恒夫 畿央大学大学院教授

日ウェブサイトのご案内

日ウェブサイトで、日々の指導や資料作成に役立つ様々な情報を発信しています。新版教科書の内容を紹介する資料や、書写指導に役立つ資料がたくさんあります。

スマートフォンやタブレットでも見られるよ！



書写の「コンテンツ」一覧

- 内容解説資料
- 教科書検討の観点からみた内容の特色
- 年間指導計画案
- 編修趣意書
- 教科書デジタルコンテンツ
- 内容解説動画
- 「線 Line」
- 「書写のABC」
- 書写Q&A
- 文部科学省情報



※この画面は、サンプル版の画面です。



教科書デジタルコンテンツは、書写の学習に欠かせない「書く姿勢」や「用具の扱い方」などの動画コンテンツです。動作を一つずつ確認できるため、子どもたちの理解に役立ちます。

ぜひアクセスしてご覧ください！



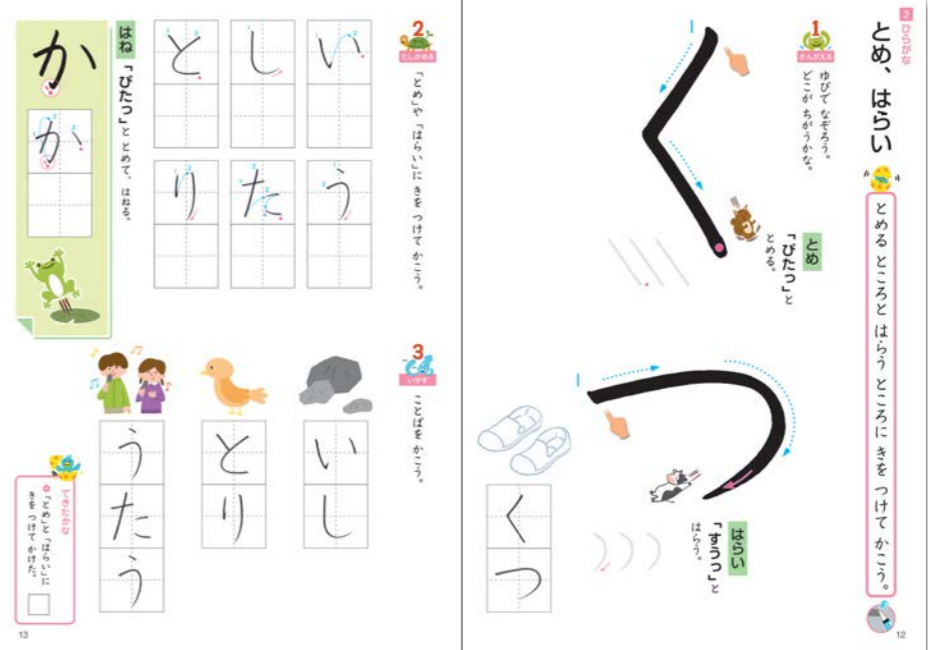
日ウェブサイトのURL: <https://www.nichibun-g.co.jp/2020/>

使ってみよう! 「水書きシート」

新版教科書を
こう使う!

1

大阪府枚方市立蹊跎東小学校教諭
藤井美和子



【一年 P.12・13】

どうやってかこうかな

とめ ↓ はね **か**
 ・ ぴたっ ・ びよん
 ・ ビシッ ・ うごかない
 ・ しゅー
 ・ すうー
 ・ すべりだい

はらい

★みずがき
えんぴつのもちかた
おちぎく

④ とめるところは、はらいと「ころ」きをつけてかこう。

学習過程	学習形態	主な学習活動	指導上の留意点
5分 導入	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の見通しを立てる。 ● 題材「くつ」とめあての提示をする。 とめるところは「つ」ところにきをつけてかこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「くつ」を黒板に提示し、「とめ」「はらい」がどこにあるかを確認する。
30分 展開	個人 ペア	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書に鉛筆で書いて練習する。 ● 水書きシートを使って練習する。 ● 「とめ」「はらい」 ★言葉を書く。 ● 教科書に鉛筆で書いて練習する。 ◆水書きシートに「いし」または「とり」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童から自由に意見を出させる。 ● 擬音語にも焦点を当てて一緒に空書きする。 ● 「はね」「は」とめ」の後にはなることを確認する。 ● 鉛筆の持ち方で大きく書いて練習することを伝える。 ● 隣の席の児童と時間をずらして書き、書いているところを見せ合っ。 ● 消しゴムはできるだけ使わせないようにする。 ● 机間指導し、個別に声かけをする。
10分 まとめ	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ◆国語ノートに「く」「つ」「くつ」の「つ」を書いて練習する。 ◆「うたう」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● まず黒板があれば、同じ速さで児童と一緒に書く。

低学年の児童は筆圧のコントロールがまだ上手にできないこともあり、はらいを書くことが難しい児童も少なくない。国語での平仮名の学習で、なぞり書きをして練習する機会もたくさんあるが、形を覚えられなくても、はらいがでずに困っている児童もなかにはいる。低学年の発達の段階で筆圧のコントロールの仕方を「力を入れて、だんだん抜いていく」などの方法を理論的に教えても、なかなか理解し難いため、次の点に気をつけて指導したい。

擬音語を使ったり物に例えたりする

「すうー」「ぴたっ」「しゅー」など子どもたちが楽しんで唱えながら書けるような言葉を児童とともに考える。

子ども同士で教え合う

教師の言葉より子ども同士の言葉の方がわかりやすく伝わったり、意欲をもつきっかけになったりすることもよくある。お互いの書き方を見て自分の書き方を見直すこともでき、技術の向上にもつながる。

水書きシートを活用するにあたって

●練習の回数を増やすために、乾く時間のことを考慮して、書かせるタイミング

ミングを決める。

◎水書用筆の代わりに絵の具筆を使用する際は、よく筆を洗い、シートに絵の具が残らないようにする。できるだけ鉛筆持ちになるように指導し、含ませる水の量についても水が落ちない程度に調節して書くようにする。

指導案について

◎黒板にも水書板を用意し、説明したり一緒に書いたりしながら、視覚的な支援も加えるところがわかりやすい。書画カメラを活用してテレビに映して指導すると、児童と同じ物を使って指導できる。また、上手な児童にお手本として書きに来てもらうこともできる。

準備物

★言葉を書く」については、児童の実態や時間に合わせて、省略したり内容を少なくしたりしてもよい。



- ◆教科書
- ◆教師用水書用筆
- ◆水書板または書画カメラ
- ◆ます黒板

奈良県生駒市立生駒南第二小学校教諭
諸岡恭子

生活と書写		都道府県名の書き方	
北海道	青森	岩手	宮城
秋田	山形	福島	
茨城	栃木	群馬	埼玉
千葉	東京	神奈川	
新潟	富山	石川	福井
山梨	長野	岐阜	
静岡	愛知	三重	滋賀
京都	大阪	兵庫	
奈良	和歌山	鳥取	島根
岡山	広島	山口	
徳島	香川	愛媛	高知
福岡	佐賀	長崎	
熊本	大分	宮崎	鹿児島
沖縄			

都道府県市郡区町村丁目番地号様

【四年 P.45】

指導にあたって
書写学習の成果は、生活にいかして日常化できるものである。児童の興味・関心を高め、手紙や他教科のノートやプリントなどの文字を正しく丁寧に書くこととする意識を育みたい。

四十七都道府県の学習を継続的に進めていくうえで、子どもたちに単純な暗記を求めるのではなく、子どもたちが興味・関心をもてるような学習を加えていくことが大切であると考える。例えば、身のまわりの情報をいかしたり、都道府県の特徴と一緒に理解したりしていく方法がある。本校の社会科教科書では、「わたしたちの住んでいる県」の単元で、自分たちの住んでいる県について学んで、そのつながりのある都道府県、日本全国、世界へと広げて学んでいく。

今回は、文字に着目してクイズ形式で、興味・関心をもたせながら学習できないかと考えた。そして、生活にいかして文字を丁寧に書くことを意識づけたい。



都道府県名の書き方

① 使う漢字に着目して、都道府県名クイズをしよう。

「山」がついているもの

- ① 岡山
- ② 富山
- ③ 山形
- ④ 山口
- ⑤ 和歌山
- ⑥ 山梨

一部に「山」がついているもの

岩手

宮崎

長崎

岐阜

島根

徳島

広島

福島

鹿児島

山

大きさ

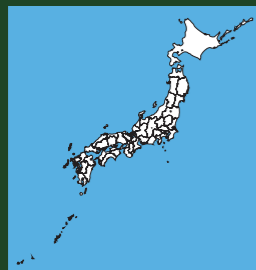
形

場所

点画

はばをせまく

ゆずり合う



学習過程

学習形態

主な学習活動

指導上の留意点

5分 導入

● 本時の見通しを立てる。

使う漢字に着目して、都道府県名クイズをしよう。

30分 展開

● 都道府県名に「山」がついているものを探す。
● プリントに丁寧に書く。

● 「都道府県名の書き方」を見て探し、発表させる。手本を見ながら丁寧に書くことを伝える。

● 都道府県名の部分に「山」を含むものを探す。

● 「へん」「かんむり」になったときの变化について考える(形・幅・字形・大きさ・点画の書き方など)。

● 「へん」になるときは、縦長になる。

● 右上がりになる。

● 幅が狭くなる。

● 「かんむり」になるときは、横長になる。

● 幅が広くなる。

● 部分の組み立て方につけて都道府県名を書く。

● 漢字で書いた都道府県の場所を、白地図で探して、色を塗る。

● グループで、文字に注目して都道府県名クイズを考え、出し合う。

● 「川」がついているもの

● 「口」が漢字の一部に入っているもの など

● 「都道府県名の書き方」を見ながら、探すように支援する。

● 文字に注目して探しながら、「山」以外の文字でも「へん」や「つくり」になると、形が変化していることに気づかせる。

10分 まとめ

● まとめをする。

● 自己評価をする。



ためし書きをしたよ。私の文字には、どんな課題があるかな？

ためし書きと教科書手本を比べて、気づいたことを書き込んでみましょう。



書き込んだら、次のページへ!!



書写の力を身につける 指導の手立て

山内有香子

「ためし書き」とは

「ためし書き」とは、文字通り、試しに書いてみる「こと」、その書いた文字のことです。題材の文字を学習の最初にまず書いてみることで、今の自分の力を知るところから学習をスタートします。したがって、教科書は閉じ、手本となるものは見ないで書きます。今の力で書いた「ためし書き」と、まず目指すところの「手本の文字」を比較することで、学習のめあてや、そこに向かう学びの道筋を、子ども自身で見つけ考えていくのです。

何も見ないのが原則ですが、題材の文字がわかりにくいことが予想されるようなときは、「一度板書してから消す」「空書きして筆順を確かめておく」といった活動を入れて、子どもたちが迷わずに書けるように配慮することも必要です。

「ためし書き」をめあてにつなぐために

「ためし書き」を「手本の文字」と見比べ、気づいた点を整理・共有し、学習のめあてに迫るために、まず、子ども自身が気づいたことを、文字や記号で書き込ませます。その際には、いくつか気をつけたいことがあります。

①「ためし書き」ができた子から、書き込む活動に取り組みさせる。

全員が書き終わるのを待つと、学習時間に余裕がなくなり、書くのが遅い子はほんの少ししか書き込めなくてもいいのです。慣れてきたら、ためし書きが短い時間でできるようにします。

②手本に赤鉛筆で書き込ませる。

手本に書き込むことで、練習中やまとめ書きのときにも、気づいたことや今日のめあてを目にすることになります。色も赤であればわかりやすいので、学習の準備物として用意させておくと、活動がスムーズに進むでしょう。

③短い言葉や記号を使って書き込ませる。

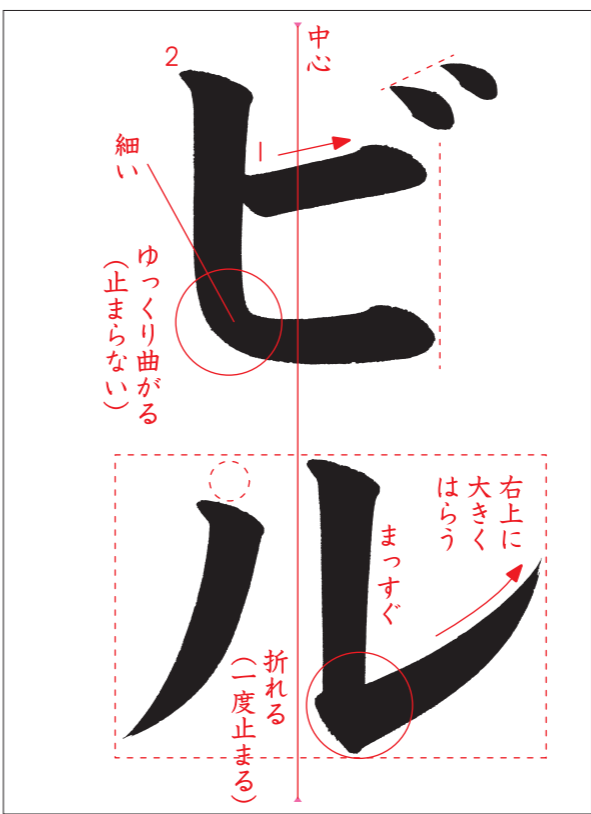
目的は書き込むことではなく、自分の気づきを目に見える形で残すことです。矢印や線、短い言葉などで時間をかけずに一目でわかるように書くよう指導します。

【三年 P.1・2】

書き込ませる内容は、とにかく「気づいたこと」です。「ここは考えた通り、手本の文字と一緒に」とか「もう少しこうしたらよかった!」といったことを見つけてください。はじめはなかなか見つけられないので、反対にやたらとたくさん書き込んだりするかもしれないですが、板書がモデルとなって少しずつ書き込む内容もわかってきます。やたら多いのも、まずはそれだけ見つけたことを認め、場合によっては「既習の内容については書かなくてもいい」などの指導を加えていきましょう。

は、その子だけのめあての一つとして認めることが文字を書く喜びにつながるのではないのでしょうか。そのうえで、今日のめあては全体で確認し、手本に書き足して意識させるようにします。

学習のめあてにぐっと直結させたい、焦点化したいのであれば、書き込む時点であらかじめ指示しておきます。「今日は二画目だけ」「横画の長さに注目して」と比べる範囲を狭くしておけば、時間も短くなり、後の話し合いもポイントを絞ったものになります。ただ、絞り込みすぎると、結局、学習のめあてを提示するのと同じことになり、子どもの文字を見る力が育たないことになり、学習を振り返るときには、文字全体から今日のめあての価値に気づかせなどの工夫を考えたいところです。



新教材「書写学習の進め方」

二〇二〇年度版「小学書写」教科書には、子どもたちの主体的な学習を支えるものとして、「この教科書の使い方」(一・二年)、「書写学習の進め方」(三・六年)という教材を設定しました。子どもたち自身が学習の進め方や教科書の使い方を理解して授業に臨むことが、よりよい書写学習には欠かせないと考えているからです。

学習の進め方を子どもたちが意識しながら学習を進めることは、生きて働く書写の力を育むことに直結します。書写の目指すところは、日常生活での書写力を獲得することです。ただ、いくつかの文字を練習して上手く書けるようになっただけでは、ここに到達することはできません。このこと

を、子ども一人一人が正しく理解し、「書くことを学びながら学び方を手に入れる」「この活動は何とどうつながり、どんな力になっていくのか」を意識して授業に参加するために、この教材は大切な役割を果たすのです。

そして、このように教科書に見開いて提示されていることで、いつでも手元で確認することができ、子ども自身も気がついたとき、すぐ目にする事ができるようになります。主体的な学習を可能にしているのです。

ぜひ、学年のはじめや単元の導入時に、このページを活用してみてください。低学年では、授業を進めながら、少し進め方が変わった頃に一度振り返ってみるのがよいのでないでしょうか。学年が上がるにつれて、何のためにこの活動を、この学習をするのかにもふれましょう。知識に支えられた技能が積み重ねられていく授業の第一歩がこのページから始まります。



山内有香子

神戸女子短期大学教授、神戸市立小学校教諭、神戸市立小学校教育研究会書写部幹事、兵庫県書写コンクール事務局を歴任。平成二十六年、神戸市教育実践功賞を受賞。平成二十八年、神戸市授業マイスター就任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

主体的・対話的で 深い学びを支える 書写教科書

尾崎靖二

これからの書写教科書には、書写の力だけでなく、主体的・対話的で深い学びを追求する学びのプロセスのなかで子どもたちを支え、高めることが求められています。

学習指導要領には、「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる」との記述があります。

言語活動に取り組み「国語の広場」

ここでは、「国語の広場」「生活と書写」「言葉の窓」のコーナーを取り上げて、そのような力を育てるために、どのような工夫があるのかを解説します。

「国語の広場」では、一年生でスピーチ原稿を書きます。その際《感想語彙表》を日常のなかで作り上げていくことを提案しています。経験の裏付けのある言葉として語彙の力を向上させ、子どもたちの学びを支えます。

二年生では観察記録を書きます。観察は生活科などの各教科等において通常行われている学習活動です。算数でも数学的活動の「身の回りの事象を観察」することや図形の観察、時計の観察など様々に取り上げられています。学習指導要領の改訂では、その質の向上が主眼とされています。

日文的「小学書写」では、「観察の方法」に着目して「全体の様子だけでなく部分をクローズアップ」「いろいろな角度」「変化を比べる」で見ることなどを汎用的な力として取り上げました。



【二年 P.36・37】

三年生では学習新聞、五年生では提案文を書きます。

どちらもシンキングツールを活用して、情報の整理の汎用的な力に留意してあります。三年生では、分類や比べること、必要な言葉の書き留め方、引用の仕方、図鑑・事典の使い方、五年生では、情報や語句の関係付けや表し方をそれぞれ取り上げています。



日常生活にいかす「生活と書写」

「生活と書写」では、子どもたちの日常生活を支える書写の力を、主に六つの系統で整理して掲載しました。

- 1 ノート指導（低学年）
罫線・ますでの書き方、横書き、絵日記・連絡帳
 - 2 手紙（二年を除く全学年）
年賀・お礼・案内・エメール
 - 3 原稿用紙（二年以上全学年）
長音・拗音・促音・撥音や、助詞「は・へ・を」、句読点・かぎ・改行の書き方
 - 4 メモ（五・六年）
電話メモ・取材、構成メモ
 - 5 掲示物（四年以上）
学級新聞・ポスター
 - 6 作品（一・二・六年）
書き初め・卒業制作
- その他 都道府県名（四年）

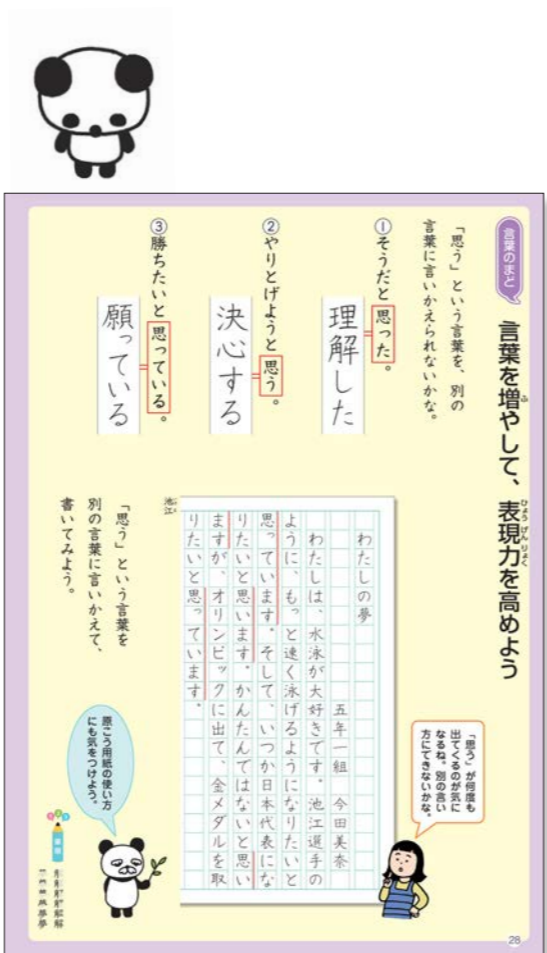
語彙力を高める「言葉の窓」

最後に、「言葉の窓」を取り上げます。ご存知のように、低学年の学力差の背景に語彙の量と質の違いがあり、全教科の基礎である言語能力を支えるのが語彙であるといわれています。

そこで、日文は「言葉の窓」で全学年にわたって語彙を学び、使い、書く活動を取り入れました。

低学年では動物や挨拶などの「なかまの言葉」や体験したことを表す「身近なことを表す語句」を豊かにする内容を取り上げています。

中学年では「様子や行動を表す語句」などを詳しくしたり、分類したりすることで量と質の両面から充実するように考えています。



【五年 P.28】

五年生では「思考に関わる語句」を取り上げ、語彙の連鎖からより深い考えや思いを自ら紡ぎ出せるように考えました。また、六年生では「言語文化」との関わりで季節の言葉を取り上げています。

このように、三つのコーナーが関連し支え合って、書写のみでなく総合的に言語能力が育成されるように心がけました。



おさき じずか
尾崎靖二

甲南女子大学教授・交野市教育委員。教育委員会指導主事、四條畷市・交野市の小学校長、中央教育審議会教科別専門部会（国語）委員、学習指導要領解説国語編作成協力者等を歴任。二〇〇七年度、第三十八回博報賞受賞・文部科学大臣奨励賞受賞。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。



【五年 P.36・37】

四年生では読書紹介のリーフレットを書きます。

導入では、既習の構成要素などの知識をいかしていきなり読書紹介を書かせています。その不十分さから自分とクラスの学習課題を紡ぎ出すことに取り組みます。主体的に見通しをもって、粘り強く学びに取り組み学習プロセスの定着に寄与すると考えています。

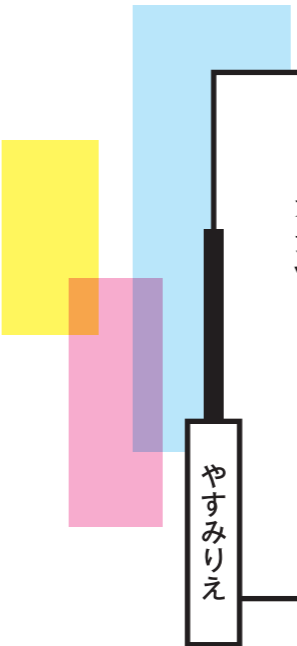
六年生では、五・七・五での創作に取り組みしています。六年生という人生の節目に合わせて、「卒業」というお題を核として考えます。「ああ、あるな」という「実感句」とも呼ばれる川柳の特色をいかした作品を小筆で色紙に清書して、鑑賞し合います。



【四年 P.46】

五・七・五で 自分の思いを 表現しよう

やすみりえ



五・七・五で、自分の思いを表現しよう

①

はじめに、「卒業」をテーマに、思い付いたことを書き出して、イメージを広げました。



②

「句を作る」とのポイントについて、先生の説明を聞きながらノートにまとめました。

- 句を作るためのポイント
- 音の教える
 - ・あからんまですべて一音として教える
 - ・しんやんせん(六音)
 - ・のほす音や小さい(七音)は、一音として教える
 - ・ノート(三音)か、が(二音)(四音)
 - ・「あ(二音)い(二音)は」は「二音として教えない」
 - ・「じ(二音)ん(二音)し(二音)う(二音)時(二音)
 - 句の約束(七音)
 - ・五・七・五の十七音でまとめる
 - ・真に出したり、指折り数えたりして確認する
 - ・言葉の木の枝葉から見たイメージを大切に
 - ・伝えたい内容をしっかり整理する
 - ・作品が完成したら、ゆくり見直す
 - ・卒業の喜びやリズミ感にも目を向ける
 - ※テーマにそった内容になっているか確認する

③

それぞれの思いを五・七・五で表現し、みんなて鑑賞しました。

さよならのかわりに言うよありがとう

卒業で新たな一歩ふみ出そう

将来の夢は先生待っててね

感想・意見

- (テーマについて)
 - 身近なところからテーマを探し、思い付いたことを書き出すのが良かった。
- (文字を書くとき)
 - 用紙と字数を考えてから書き始めないと、紙面に収まらないことを学んだ。
 - 短冊に書いても、おもしろい作品になるのではないかなと思った。
- (句を読み合っ)
 - 自分の句の意味がきちんと伝わるかを確かめられてよかった。
 - 自分が思いもなかった新しい意味を教えてもらい、おどろいた。

【六年 P.36・37】

私は日ごろ「川柳」という文芸の世界に身を置き、言葉の魅力を身近に感じながら過ごしています。わずかに十七音の中に様々な思いを込めて表現すると、それは、かけがえのない「作品」になります。今回、小学書写にその楽しみ方をアレンジして取り入れることができ、とても心嬉しい編集作業でした。卒業目前の六年生のみなさんが、言葉を紡ぐ時間を通して豊かな学びを得ることを願いながら、この紙面の活用方法や指導ポイントをこれからお話しさせていただきます。

「言葉の木」を育てよう

まずページをひらいて最初に目に入るのは、言葉の木です。五・七・五にしたイメージ(お題)のイメージをどれだけ膨らませることができるか、また、言葉の選択肢をどれだけもつことができるかならびがでます。ぜひ最初の段階で言葉の木の枝葉をあれこれ広げ、浮かんた言葉をいろいろ書き込むようにしてください。ここに時間をしっかりとっていただきたいと思えます。これは子どもたちの想像力を鍛えることにもつながるはずで、イラストのように、中心に「卒業」としっかりと書いておくことは、テーマ(お題)から外れていけないための大切なポイントです。先々、これをきっかけにまた五・七・五の作品づくりをする機会があれば、そのときのテーマ(お題)を同じく中心に書いて応用することができます。

あとはそれらをつなげていくようにすれば良いでしょう。

完成したらまず見直しを

いよいよ一つ作品ができあがったら、見直しをする時間も必要です。作品として発表するので、しっかりと見直したいところです。音数はきちんと五・七・五を守れているか、また漢字の表記のミスは無いかなどを基本に見ていきます。そうすることで、実際に色紙や短冊へ書く前に、作品への愛着が湧いていると良いですね。きっと、手書きの文字には、その思いが漂うことでしょう。

作品発表と鑑賞の楽しさ

一人ずつ作品を手しながら、声を出して句を読み上げます。まるで作者の分身のような五・七・五ですから、みんなが興味深く鑑賞している姿が想像できます。その作品の背景や、文字に込めた想いなどエピソードを添えて発表すれば、良い思い出になることでしょう。また、他者の作品を鑑賞して感想を述べる場合は、「良いと感じた点」を伝えるようにすることをすすめます。その方が心地よいコミュニケーションが取れて、互いに良い気分になります。これは、いわゆる「句会」などでも心掛けるべきポイントとして挙げられます。本格的な句会の場合は、それぞれの作品について感想を述べ合うことが多々あり、どのような

五・七・五のルールをいかして

さて、今回は定まった音数の作品作りですので、言葉の音(おん)の数え方もこの際にしっかりと習得しておきたいものです。これを適当にしようとうと、言葉がまとまりにくくなってしまいます。また、作品の出来栄にも響きます。まずはゆっくり指折り数えながら例に挙げた言葉で練習してみてください。みんなと一緒に、声を出して数えてみるのもいいでしょう。

作品づくりでの心がけ

言葉の木から選び出した、気持ちにぴったり合う言葉を組み合わせる五・七・五を作っていきます。ですが、使いたい言葉や伝えたい気持ちがあるいろいろな、切り捨てるのに勇気がいります。ここは一つ、発想を変えてみるアドバイスをしてください。例えば「十七音しかない」ではなく「十七音もあるよ」というように…。

まずはそれだけでグッと気が楽になります。そぎ落とす、というよりも膨らませるような感覚をどこかでもって欲しいのです。そのためには最終的に、ポイントになる言葉を一つか二つくらいにして、

句に対しても、何かしら一言は良い箇所を見出してコメントすることは相手への素敵な配慮です。こうした場を通してコミュニケーションやディスカッションの能力も磨かれるといえますね。

まとめとして

ここまで、五・七・五の作り方と発表・鑑賞の流れをまとめてご紹介してきました。それぞれに私からのご提案も添えてみました。最後に、一つ先生方へ。ぜひ、ご自身も六年生の卒業に寄せて五・七・五作品を作ってみてはいかがでしょうか。授業の一番最後に、子どもたちへ披露していただいたら、本当に良い記念となるでしょう。



やすみりえ



川柳作家。神戸市出身。恋を詠んだ作品が幅広い世代から支持されている。多数の公募川柳の選者・監修を務める一方で、子どもたちへの川柳教室やワークショップを開催。(一社)全日本川柳協会会員。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

書写の教科書が生まれ変わりました。
日本文教出版の書写の教科書は、従来から

- ◎基礎・基本の定着
- ◎書く意欲の向上を図る
- ◎書写の力を日常にいかす

という三本柱に、新学習指導要領の趣旨を取り入れて編集してきました。
今回の新しい教科書は、これまで大切にしてきた三本柱をよりどころに、生きて働く知識や技能の習得をめざして、新たな内容を盛り込みました。

- (1) 書写の学びを深める「学習のプロセス」を、一部改良を加えて提示しました。
- (2) 子どもたちが主体的に取り組む「書写学習の進め方」を具体的に示しました。
- (3) 点画の書き方の確かな指導のために「水書きシート」を低学年の教科書に、付録として付けました。
- (4) 「書写学習の意義」について、子どもたちが真剣に考え、話し合い、理解を図る資料を提示しました。
- (5) 言葉を広げる活動と、国語の言語活動との緊密な連携を図るための教材を掲載しました。

(1)の「学習のプロセス」は、すべての学年の主教材を「①考える↓②確かめる↓③いかす」という三つのステップで構成し、学習を深めていく道しるべとするものです。
教材の文字について、「どう書けばいいのか。なぜそのように書くのか。」という課題追求からスタートし、「なるほど、そうか。」と文字のきまり（原理・原則）を発見し、書いて確かめ、「もっと書いてみよう」と他の文字へ活用していく学習の手順を示しています。

これは、「教材の文字に似るように書く学習」から、「考えて書く学習」、「子どもの心がはずむ学習」、「知識に基づいた技能を習得する学習」への転換を図る書写の授業の創造につながるものと思います。

『学習指導要領が変われば教科書も変わる、教科書が変われば授業も変わる、授業が変われば子どもも変わる』。これは、古くて新しい言葉です。

子どもたちの確かな書写力は、それぞれの担い手が、自分の持ち場をしっかり守ることにより、実現するものと思っています。



みやもと しのぶ
宮本 栄信（墨童）
元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事、大阪府内の公立研究會会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

特別寄稿

教科書が変わる
授業が変わる
子どもが変わる

宮本 栄信

書写力向上宣言

「書写指導のミカタ」セミナーレポート

去る二月九日、第三回小学書写セミナーを開催しました。たくさんのご来場ありがとうございました！



実技指導

実技指導
誰でもできる毛筆指導

山内有香子先生の実技指導は、「毛筆指導は誰でもできます！」と力強く始まりました。
まず、書写に関する知識をつけるため、新学習指導要領の変更点を確認した後、学習の進め方や、楽しい授業にするためのポイントなどを紹介くださいました。
毛筆作品を掲示するときは、「まとも書きだけではなく、試し書きとまとも書きを並べて掲示する」というお話しに、驚きの声しかし、それが個人の成長を可視化するためとわかると、先生方は納得の様子。固定観念にとられない様々なアイデアに、「すぐに使いたい！」という感想が多く寄せられました。

講話

国語の授業を書写でどう支える

尾崎靖二先生には、国語教材での語彙指導を例に挙げ、学習の流れを辿りながら「学習活動に必要な汎用的な力を、書写がいかにか支えているか」をテーマにお話しくださいました。
一時間分の語彙指導だけでも、知っている語彙をノートに書き出すときや、意見を付箋に整理するときなど、子どもたちはたくさん書く活動を行います。その過程で、何度も書写の指導事項を意識させる声かけがあり、その頻度の高さ先生方は驚いていました。
子どもの書く活動の多さを実感し、書写力が日常生活に資する力であると再認識することができました。

お知らせ

教授用資料のご案内

■「書写のABC」シリーズ
どんな先生でも効果的な書写指導ができるように、書写指導の基礎・基本や、授業で使えるアイデアをまとめました。



■揭示用拡大資料

児童がいつでも確認できるように、適切な姿勢や筆記用具の持ち方の拡大資料をご用意しました。



揭示用拡大資料①



揭示用拡大資料②

ご入用の方は、弊社編集部小学書写係、または、各地区営業担当までお問い合わせください。
[編集部直通TEL] 06-6695-2090